

博士學位論文

内容の要旨

および

審査の結果の要旨

人間生活学研究科

第 18 号

令和 4 年 3 月

徳島文理大学

はしがき

この冊子は、学位規則(昭 28 年 4 月 1 日 文部省令第 9 号)第 8 条による公表を目的として、本学において博士の学位を授与した者の「論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨」を収録したものである。

(学位記番号)

(氏名)

(論文題目)

甲第 11 号

岡山千賀子

子育て支援員の保育における現状と保育者効力感の向上のための課題

氏名	岡山 千賀子		
本籍	徳島		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	甲第 11 号		
学位授与年月日	令和 4 年 3 月 15 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
学位論文の題目	子育て支援員の保育における現状と保育者効力感の向上のための課題		
論文審査委員	(主査) 教授 森田 孝夫	(副査) 教授 松本 有貴	(副査) 教授 岡 直樹

論文の内容要旨

子育て支援員の保育における課題を探り、それらの課題から明らかになった保育者効力感の向上に資する方策をまとめた。4つの研究による階層的な研究目的と結果の考察からなる。研究 1 では、子育て支援員と保護者にインタビューを行い、保護者の期待に対して支援員の低い自信というズレを見出した。研究 2 では、保育管理職員にアンケート調査を行い、子育て支援員に対する期待と不安というズレを見出した。研究 3 では、子育て支援員と保育士・幼稚園教諭にインタビューを行い、子育て支援員に強化すべき力を特定した。研究 4 では、保育現場で活動する子育て支援員に自記式の質問紙調査を行い、保育者効力感の向上に関係する要因を明らかにした。本邦の保育の質向上に寄与する子育て支援員に対する支援として、保育者効力感の向上を促進する方策をまとめた。

今後の研究では、研究から得た知見を子育て支援員の養成課程に活用し、子育て支援員の保育者効力感の向上に寄与し、本邦の保育の課題を解決する一助につなげるモデルを構築したいと考えている。

論文審査結果の要旨

本論文は、保育の質向上の方向性を提言することができる社会的に意義のある研究をまとめている。子育て支援員は保育の課題解決に貢献する人材として養成され活躍が期待されている。しかし、その実態と課題についての研究は始まったばかりであり、本研究はその先駆的役割を担うと評価される。国内外の論文とデータから、本邦の保育の現状における課題を明らかにする過程で、英語論文を読みこなしまとめる語学力が証明された。保育現場との良好な関係を活かしたフィールドワークによるデータ収集を用いたことも研究の特徴である。研究は、量・質的データを含み、量的データは、因子分析、相関、分散分析などで、質的データでは半構造化インタビュー法を、グラウンデッド・セオリーアプローチを用いて、それぞれ適切に分析している。学会誌(2本:児童学研究)に採択されている。以上により、本論文は博士論文に値すると判定した。